



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和6年2月22日(木)

風景街道大学 菜の花田原キャンパス参加 編

NPO 法人日本風景街道コミュニティ(代表理事 筑波大学名誉教授 石田東生先生)では、日本風景街道のノウハウの共有や活動の活性化を目的に、日本風景街道大学を全国で開催しています。今年度は市制施行20周年を記念して、愛知県田原市の文化会館で開催されました。

開催企画案内には「日本風景街道フェア【ポスターセッション】全国の日本風景街道ルート紹介」とあったことから、姉妹街道の「城下町あいづ道草街道」と、2年前から灯り交流を続けている「広瀬川せせらぎ緑道」にお声がけしてポスターを用意し、岩手河川国道事務所の石山さん、能代河川国道事務所の長崎さんと参加してきました。

主催者や来賓挨拶のあと、山下政良田原市長から開催地報告がありました。愛知県には2つの街道があり、田原市全域となる渥美半島をめぐる国道42号と国道259号が「渥美半島菜の花浪漫街道」として登録されています。

市では、風景街道登録以前から遊休農地での菜の花栽培など、市民とともに持続可能な環境共生のまちづくりを推進されていたことから、市建設部街づくり推進課内にパートナーシップ会議事務局が置かれ、現在は第3次アクションプランに基づいて活動が進められています。

風景街道では高齢化や資金不足などにより活動の停滞や組織運営に課題が多い中、市の施策と共に進められる活動は、のしろ白神NWの今後を考える上でも重要と思い、今年度ののしろ市民まちづくりフォーラムには、田原市から企画調整監の志賀さんを講師にお招きしています*。

続いて4つの先進事例報告がありました。ビジネスとして資金確保して持続的な活動を行っている「十勝シーニックバイウェイ〜トカプチ雄大空間ルート」、道路協力団体や観光庁など風景街道以外の制度や事業を活用している「ぐるり富士山風景街道」、自治体や企業等との連携で活動資金を開発している「おおいた海辺の道」、3県にまたがる広域で活動している「銀山街道・陰陽結ぶ銀の道」。いずれも、課題解決のために関係者が知恵を出し、工夫されていました**。

現状を嘆くばかりでなく、自分たちにできそうなことは何



田原市は農業産出額が全国2位です。沿道には菜の花のほか、キャベツ畑や花卉栽培のビニールハウスが並んでいます。ルート上には3つの道の駅があります(田原市HPより転載)。



エントランスには足を止めたくなる展示が色々ありました。菜の花浪漫街道のルート紹介やフォトコンテストの入賞作品が展示されていました(上)。

田原市にはトヨタのレクサス製造工場があります。100台限定生産のロードバイクのうち3台はふだんは道の駅に展示されているそうです(中)。

宮崎県と北海道のルートの商品がマルシェで販売されていました(下)。



第一分科会では、会場からも熱い意見や質問がありました。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

か？を先進地から学び、自ら考えることの重要性を改めて感じました。

その後の深掘り討論と第1分科会のテーマは「日本風景街道「心・技・体」の再構築」です。活動を始めた頃の思いやコンセプト「心」はあるけれど、団体の高齢化や資金難による活動低迷は多くが認める共通課題。先進事例報告にあるような知恵やノウハウ「技」を取り入れながら、既存組織にこだわらず、できそう！面白そう！を共有できる相手と進める緩やかな仕組み「体」が大切だと強く感じました。

1月のフォーラムに続き、田原市で色々な方とお話をさせていただき、「人」では三河出身の「菅江真澄」、「技」では「木炭活用による沿道景観整備」で交流を進めさせていただけたら楽しそう！と思っています。

田原市街づくり推進課のみな様、大変お世話になり、有難うございました。今後とも、よろしくお願いいたします。

文：渡辺 千明

* 令和5年15日の活動レポート参照

** 資料等は風景街道コミュニティHPに後日掲載されます。

風景街道大学に参加して①

能代河川国道事務所調査課 調査係長 長崎勇

初めて参加した風景街道大学は、今後、整備局や他の事務所、団体には是非とも参加いただいて、知見を広めていただきたいと思えるほど非常に有意義なものでした。

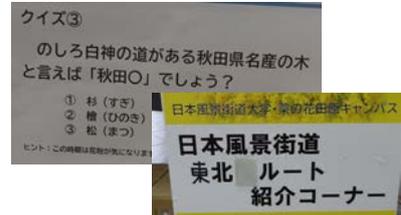
先進事例報告では、風景街道団体が抱えている課題(資金面、高齢化 etc.)に対し、関係者の経験、停滞すること無く一歩でも前への精神で乗り越えようとされている姿勢に、まずは行動！という気持ちを再確認いたしました。

風景街道大学に参加することで、知見だけではなく、他団体との交流や人との繋がりが広がったことが今回の一番の成果と思っています。秋田県北のPRも、とてもうまくいったと思いますw。

今後もネットワークの一員として事務所もイベント提案や他団体との連携を構築できるよう、これまで以上に活動を強化していきます！



吹き抜けの円形大空間にルート紹介コーナーが設けられていました(上)。田原市と言えば電照菊やカラーリングマム。撮影コーナーもありました(下)。



展示ブースを入り口横の絶好の場所にしていただき、クイズラリーの質問紙も貼っていただいたおかげで足を止めて下さる方が多く、説明のお声がけがしやすかったです(上・中)。志賀さんが「北陸」を加工して、急遽「東北」の掲示を作成して下さいました(下)。



優秀販売員の石山さんと長崎さんのおかげでパンフレット類70部と試販品30袋は完売(上)。テーブルに木目シートを敷いたり、試食の効果は抜群でした(下)。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

風景街道大学に参加して②

岩手河川国道事務所調査課 地域連携係長 石山竜也

日本風景街道は、住民、NPO法人、企業など地域が主体となり、「道」を舞台に地域ならではの風景や自然、歴史、文化などの資源を活かした「美しい景観づくり」や「活力ある地域づくり」に取り組むものということを先進事例を通し、改めて認識することができました。

また、行政と連携することも重要であり、国ももちろんですが、市や町においても積極的に参加していただくことが発展に繋がると感じました。

深堀り討論のテーマ「日本風景街道「心・技・体」の再構築」では、個人的には「「技」の継承」ということの難しさを考える機会となりました。面白そう！楽しそう！というところから始まり、そこに若者が興味を持ち、様々な人を巻き込んでいくのが重要であるのだと再認識することができました。

継承にあたっては、若者とコミュニケーションの取り方について皆さんすごく悩んでいると感じました。継承する側が、継承したい若者にもっと寄り添っていくことも必要では？とも思いました。

たしかに、継承したくともそういう場に参加しない若者も多いかもかもしれません。「いまの若者は飲み会も来ない」と良く聞きます(笑)。

しかし、逆に「スマホの操作わからないけど、若者のやつといて」という発言も良く聞きます(笑)。「スマホの操作わからないから、教えてほしい」といった姿勢も必要だと感じました。

話は脱線いたしました。何が言いたいかというと、若者の思考をとりいれて、継承する側も停滞ではなく前進していくことが、発展に繋がるのだと個人的に思いました！



道の駅田原めつくんはうすでは、2月9日から風景街道の特設コーナーが設けられていました。こうした交流にも参加できるようにになりたいですね。



ルートを走っていると、大きな菜の花色の看板が目を引きます(上)。菜の花を見ながら走る渥美サイクリングロード(中)。「椰子の実」の歌で有名な伊良湖岬周辺の街路樹は椰子の木です。随分と南下していることを実感します(下)。



来年度は9月6,7日に開催されます。大分県豊後高田市商工観光課長の河野真一さんから、次期開催地のご報告があり、是非行ってみたいまちだと思いました。東北からも、また連携して参加できたら良いですね。